



鎮守の森だより

NPO 法人社叢学会ニュース

第133号

2025年5月1日

令和7年度年次総会は太宰府天満宮にて 6月21日(土)・22日(日)に開催

令和7年度の社叢学会通常総会、研究発表会並びにシンポジウムは、菅原道真公ゆかりの太宰府天満宮にて6月21日(土)に開催される。翌22日(日)は見学会として福岡県内に鎮座する宝満宮竈門神社及び英彦山神宮を訪ねる。

詳しくは本紙の3、4頁に掲載しているが、正式参拝、通常総会を開催の後、「太宰府天満宮 社叢の歴史と仮殿」と題して、太宰府天満宮顧問・主管学芸員で本学会顧問でもある味酒安則氏に特別講演をいただく。午後は二者による研究発表の後、「英彦山の山岳信仰と社叢」と題して九州大学芸術工学研究院教授の知足美加子氏、独立行政法人樹木育種センター研究員の渡辺敦史氏による基調講演とお二人を含め、株式会社グリーンエルム代表の西野文貴氏、英彦山神宮禰宜の高千穂有昭氏を交えて、福岡県文化財保護審議会会長で日本山岳修験学会理事の森弘子氏をコーディネータとしてパネルディスカッションが行われる。

翌日は竈門神社の参拝の後、宝満山と英彦山の中間に位置する修験道の霊場である行者堂を見学し、

さらに大分県との県境に位置する英彦山の麓まで移動、英彦山神宮を正式参拝する。英彦山出発後は福岡空港並びに福岡駅にて解散の行程となる。

太宰府天満宮は御本殿の改修中であるが、仮殿の屋根上には緑化がなされており、工夫を凝らした建築とともに一見の価値。また、竈門神社の平成二十四年に新築された社務所・参集殿も神社建築にあたって参考とすべき事例である。

竈門神社の鎮座する宝満山や英彦山は、中世に修験者による信仰の地とされそれぞれ金剛界、胎蔵界の聖域にあたりとされ、特に英彦山は、羽黒山、熊野大峰山とともに日本三大修験の地といわれる。それぞれ山頂には御本社の上宮があるが、今回は頂上の上宮までの登拝はないので、山登りの装備は不要。

学問の神様、全国受験生の守り神でもある菅原道真公をお祀りする太宰府天満宮での通常総会、山岳信仰の祈りをつなぐ宝満宮竈門神社と英彦山神宮の参拝の二日間、会員には是非ご参加を戴きたい。

なお、正会員で通常総会に欠席する場合は、必ず委任状を事前に事務局あてご送付をお願いする。

藺田稔前理事長がご逝去されました

藺田稔社叢学会前理事長(埼玉県秩父市・秩父神社名誉宮司、京都大名譽教授)が、年も押し迫った昨年大晦日、12月31日ご逝去されました。享年88歳。藺田先生は1936年、東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。國學院大學文学部助教授、同教授、京都大学教養部教授を歴任、2000年に京都大学名誉教授。

宗教学・神道学ならびに日本文化史研究に功績を残す。主に現象学的視点と徹底したフィールドワークを実践し、日本の祭り儀礼研究に新風を吹き込む。著書に『祭りの現象学』弘文堂、『神道の世界』弘文堂、

『誰でももの神道』弘文堂、『文化としての神道 続誰でももの神道』弘文堂、編著『神道 日本の民族宗教』弘文堂、『祭礼と芸能の文化史』思文閣出版、『神道史大辞典』吉川弘文館など多数。

神職としては1989年に秩父神社宮司となり、神社本庁理事や埼玉県神社庁長などの要職を歴任。神社本庁教学顧問、神職階位浄階・神職身分特級。2023年に宮司を退任し、名誉宮司となった。NPO・社叢学会の理事長や、世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会顧問なども務めた。

ご冥福をお祈り申し上げます。(茂木 栄)



鈴鹿山麓の社叢を訪ねて

こもの ふくおう
- 菰野町福王神社を中心に

話題提供：三橋 航 (福王神社宮司)
長谷川泰洋 (社叢学会理事・名古屋産業大学准教授)
岡村 穰 (社叢学会理事・名古屋市立大学名誉教授)
櫻井治男 (社叢学会理事長・皇學館大学名誉教授)

廣幡（ひろはた）神社の社叢散策

三重県菰野（こもの）町は鈴鹿山脈の東山麓にあり、町内の湯の山温泉や御在所岳には多くの観光客や登山客が訪れる。古くは桑名と近江八幡・京都を結ぶ八風街道の中継地で、菰野藩の許可を得た近江商人が峠の流通を独占していた。集合場所（近鉄・菰野駅）近くで訪れた菰野町を代表する廣幡神社は、諏訪神社と正八幡宮を合祀したもので、明治39年の神社合祀政策でさらに多くの神社を合祀した。文献によると社叢は厚い腐植土に覆われ、ツブラジイを優先種とするシイ林にスギの巨木やカシ類が混じり、自然度の高い森になっている。

福王（ふくおう）神社について（三橋宮司）

福王山は大和の信貴山と並ぶ聖徳太子崇敬の霊場で、鈴鹿山系の老杉が茂る竜ヶ岳の山麓に鎮座している。鎮座地は古くから神宮の神領地として貢納米を伊勢へ献上しており、江戸期は桑名藩の藩有林として杉・モミを植林して、現在の美林となっている。厨子内に百済の仏工が彫って聖徳太子が安置したと伝わる毘沙門天王像があり、毘沙門天のお使いという天狗伝説が多く残されている。

鈴鹿山系の社叢について（長谷川理事）

鈴鹿山系の植物は古くから注目されており、表日本に属するが多くの日本海要素が分布する・北方系植物が白山連峰から南下し大台・大峯山塊へと移動した回廊になっている・本州の植生の境界が伊吹-鈴鹿山脈付近に認められる・いくつかの固有種が知られていることなどが挙げられる。コモノギク・イナモリソウ・フクオウソウ・スズカカンアオイ等は菰野町に特有の植物で、フクオウソウは福王神社がある福王山に由来する。溪流や湧水等の多湿な環境や石垣や巨樹がある社叢環境が、多様な植生を維持できるポテンシャルになっている。福王神社叢において北勢で記録されていないオオフジダやウスバミヤマノコギリシダの雑種等のシダ植物が見つかった。当該社叢も含め北勢のシダ植物は調査が遅れている可能性があるが、シカの食害も深刻で、対策が必要である。

シデコブシ及び湿生植物群落について（岡村理事）

福王神社がある菰野町田口の東隣の田光（たひか）地区に、平成17年（2005）指定の国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」がある。シデコブシは周伊勢湾地域に隔離分布する固有種の代表種で、愛知万博（2005）の前年に、当地は東海環状自動車道が伊勢湾岸自動車道と接続する菰野延伸計

画ルート上にあり、菰野町から呼ばれ「地形・地質・土壌」調査を担当した。段丘堆積物の砂礫層の上に貧栄養の火山灰由来の湿生黒ボク土が厚く堆積し保水して湿地を形成しており、中心部を一志断層系の活断層が南北に貫いていることを報告した。

三重の山岳修験（櫻井理事長）

近世の産土神は、全国では八幡・春日・天神などが多い中で、三重県の伊勢・伊賀・志摩地域には牛頭天王・八王子と称する神々が多く、特に八王子社は15・16世紀の民衆の熊野信仰から伊勢信仰への移行と関係する。修験の山として知られる霊山は、全国には羽黒・蔵王・日光・戸隠・白山・立山・御嶽・吉野・石鎚・英彦山等が知られているが、伊勢・伊賀・志摩地域には多度山・福王山・藤原岳・御在所岳・南宮山・赤目山・朝熊山等の23カ所の霊山が挙げられ、関係神社の縁起書作成には大峰山・熊野・白山系の修験者が関与していた。修験は明治5年（1872）に天台・真言に戻るよう禁止されたが、山間部には今日でも修験者の行場や儀式が残っている。里での修験活動も盛んで、真言系伊勢方の世義寺は外宮神職の度会家との関係も深く、また伊勢参詣曼荼羅には多くの修験者の姿も描かれており興味深い。



令和7年度年次総会の概要

参加ご希望の方は6月13日(必着)にて、申込書にご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせ下さい。見学会はバスが満席になり次第、締め切ります。

	時間	内容
6月21日(土) 通常総会・特別講演・研究発表・シンポジウム・懇親会	9:00	集合(太宰府天満宮余香殿)
	9:10~10:30	太宰府天満宮正式参拝 御本殿の素屋根見学、宝物殿「藤本壮介」展拝観
	10:30~11:15	通常総会(余香殿)
	11:15~12:30	特別講演 「太宰府天満宮 社叢の歴史と仮殿」 太宰府天満宮顧問 主管学芸員 社叢学会顧問 味酒 安則 氏
	12:30~13:30	昼食・境内拝観
	13:30~14:30	研究発表 「神宮御神宝の御太刀と琉球の赤木~南島から太宰府を経て伊勢へ~」 大阪国学院講師 渡邊 規矩郎 氏 「比良山麓の山の神」 京都大学地球環境学舎 小山 栞奈 氏
	14:30~16:00	シンポジウム 【英彦山の山岳信仰と社叢】 基調講演「修験道美術と自然信仰(仮題)」 九州大学芸術工学研究院教授 知足 美加子 氏 「九州における杉植栽の思想(仮題)」 独立行政法人樹木育種センター育種工学課研究員 渡辺 敦史 氏
	16:00~17:30	パネルディスカッション コーディネータ:福岡県文化財保護審議会会長 日本山岳修験学会理事 森 弘子 氏 パネリスト: 「世界に誇る『鎮守の杜』とその創り方(仮題)」 林学博士 株式会社グリーンエルム 代表 西野 文貴 氏 「山岳信仰と社叢(仮題)」 英彦山神宮祓直 高千穂 有昭 氏 九州大学芸術工学研究院教授 知足 美加子氏 独立行政法人樹木育種センター育種工学課研究員 渡辺 敦史 氏
18:00~20:00	懇親会(於:ホテルグランティア太宰府)	
6月22日(日) 見学会	8:00	ホテルグランティア太宰府 出発
	8:05	西鉄太宰府駅 出発(詳細は参加者にお知らせいたします)
	8:15~9:00	竈門神社参拝・散策
	10:00~11:00	道の駅小石原にて買物・行者堂見学
	12:00~12:20	英彦山スロープカー花駅から乗車、神駅到着
	12:30~15:00頃	英彦山神宮正式参拝・参集殿にて昼食
	15:10~15:30	英彦山スロープカー神駅から乗車、花駅着 バス乗車
	17:00頃	福岡空港にて希望者降車
17:30頃	博多駅にて解散	

.....研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書.....

FAX: 075-212-2973

ご希望の()欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

()見学会: 同伴 人 ()懇親会: 同伴 人 ()研究発表・シンポジウム: 同伴 人

会員番号

お名前

携帯電話番号・Mail アドレス等当日連絡先

【竈門神社】

竈門神社が奉斎される霊峰宝満山は標高829.6mのひとときわ高く美しい山です。

御鎮座については、西暦663年、朝鮮



半島における白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗戦した日本軍が、敵の本土侵攻を恐れ、翌年に水城の堤防を造り、また九州を統治する役所を現在の福岡市三宅より水城の内側で防衛するために大宰府に移転した際、その大宰府政庁を守護するために、鬼門に当たる竈門山（宝満山）に於いて、国家鎮護のための祭祀を行う為に祀られた事に依るものです。主祭神は玉依姫命です。宝満山が大宰府政庁と密接な関係にあったことから、最澄や空海をはじめ、遣隋使や遣唐使など大陸へ渡る人々が航海の安全と目標達成のため登拝し、祈りを捧げた山として大切に守られてきました。中世以降は修験者による信仰が盛んになり、山伏たちが厳しい修練を重ね世の中の平安と人々の除災招福の加持祈禱を行いました。

竈門神社は、『延喜式』には名神大社に列せられ、そして明治28年（1895）には官幣小社に列せられました。現代においては、縁結び、方除、厄除の神様として多くのご参拝を頂いており、山岳修験の世界では、金剛界の竈門神社、胎蔵界の英彦山神宮と信奉されています。

【行者堂】

行者堂は室町時代に修験道の開祖役行者が開いたとされる霊場で、英彦山と宝満山の峰入りのルートの中点にあ



り、最も重要な修行の場所でした。お堂には文禄4年（1595）8月に肥前国の西持院（さいじいん）の法印叡盛が奉納した役行者像（県指定文化財）が祀られています。行者堂の周辺には約600本とも言われる行者杉の樹林があり修験者が奉納植樹したものと伝えられています。

【英彦山神宮】

標高1,199mの英彦山は、羽黒山、熊野大峰山とともに日本、三大修験山の一に数えられています。山岳信仰、神道、仏教、道教、五行思想などを習合した修験道の盛んな山で、江戸時代には『英彦山三千八百坊』とうたわれるほど栄え、3,000人もの人々が山中で生活し、800もの坊舎があったとも言われています。御祭神は天照大御神の御子天忍穗耳命です。中世以降に神の信仰に仏教が習合され修験道の道場『英彦山権現様』として栄えましたが、明治の神仏分離令により英彦山神社となり、昭和50年6月24日、天皇陛下のお許しを得て、戦後、全国3番目の『神宮』に改称され英彦山神宮となりました。現代では農業生産、鉱山、工場の安全の守護神、勝運の神様として信仰を集めています。

【英彦山神宮のスロープカー乗車時間】

行程の都合上、時間厳守でお願いします。

上り 花駅 12:00 発→神駅 12:20 着

下り 神駅 15:10 発→花駅 15:30 着



参加費（いずれもお1人）	見学会	懇親会	シンポジウム
正会員・協力会員・賛助会員	1,2000 円	5,200 円	無 料
市民会員・同伴家族	14,000 円	5,500 円	
一 般	15,000 円	6,000 円	500 円

<見学会ご参加に際してのお願い>

◇バスの座席には限りがあります。なるべくお早目にお申し込み下さい

◇参加費は事前に下記の口座にお振込み下さい（会費用振込用紙の金額を修正して使っていただいても構いません）

◇直前のキャンセルは返金できない場合があります

口座名「特定非営利活動法人社叢学会」 垂線号振替：口座番号 00950-0-172640

銀行振込：三菱UFJ銀行 京都支店 普通 6720345



東日本大震災

- 神社の復興とともに歩んだ13年

話題提供：藤波 祥子氏（宮城県巨理郡山元町八重垣神社宮司
・宮城県婦人神職協議会会長）

震災から13年、広く被災地のことをお話することは出来ないが、八重垣神社再建を一区切りとして氏子さん方との関わりの中でどの様なことをすすめてきたかをお話する。

●山元町は沿岸部の南にあたり気候が温暖で晴れの日が多く、冬は雪が少なく、夏は海風が入ってきて涼しくとても住みやすいところで、かつては東北の湘南とも言われていた。津波の被害で320世帯ほどあった氏子のうち住める家が残ったのはたったの2軒であった。1200年を数える歴史ある社殿や、地震では倒れなかった鳥居も津波に流された。瓦礫だらけになってしまった場所をそのままにしておく他から瓦礫を持ち込まれてしまうため、神社である事を示すため真っ先に瓦礫の撤去をはじめた。離れた避難所からポツリポツリと氏子さんが訪れる様になり、何も無くなってしまった社殿の跡地の空間に手を合わせて祈る姿は実に美しかった。このような方々がいるうちは頑張れる、祈りの原点を見る思いだった。

いつのまにか瓦の上にお賽銭が置かれるようになっていた。震災前は幾度となく賽銭泥棒にあったが、瓦の上のお賽銭は無くなる事がなかった。高台の避難所を訪れた時、荒廃した土地を見下ろし、悲惨な光景を目にしながら「神も仏もないね」と声をかけられ返す言葉がなくなってしまう。別の避難所でその事を話すと「神も仏がないなんていう人は、津波が来る前から神も仏もないといっている。自分は津波が来ようが来まいが毎朝手を合わせている。自宅だろうが避難所だろうが変わりはない」と呟かれた声に周囲から拍手が起こった。このような状況の中でも氏子達からは今年の祭りを心配する声が聞こえ、ありがたいと感じた。神社の高台移転をどうするかモヤモヤと悩んでいると、災害危険区域になってしまったため帰りたくても帰れない人達から「心の拠り所、ここに生きた証としてせめて神社仏閣は残ってほしい」と言われ、この地に再建しようと思った。御柱を建てると、創建当初の姿、原点に還ったのではないかと思えてきて、またここからはじめればいいと思った。新年には電気も水道もない中、小さな裸電球を用意して初詣の参拝者を迎えた。みんなが笑って集まれる場として祭りをやって欲しいと声があがった。祭りや花火に批判的な意見はあったが、その多くは被災していない者からのものであったように思う。祭りに集まった仮設住宅の子供達はの時だけは目を輝かせて屈託のない笑



顔を見せてくれて、やって良かったと思った。

神社庁から植樹祭の話が出た時は真っ先に手を挙げた。森は短い期間でできるものではないが、まずは神様が住む森、祈る場所を作り、社殿は後から建てても良いのではと考えたからだ。日本財団の支援を受け宮脇方式により約3300本の苗を植えた。

●鎮守の杜復活プロジェクト 横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生監修の元に行われた八重垣神社での鎮守の杜復活プロジェクトは、その土地本来の植生に基づいた樹木を選定、密植、混植し、自然淘汰により森の再生を短期間で行おうとするものである。まずは土地に根付いていたシイ、タブ、カシなどが育ちやすいように土壌整備を行った。その際、震災によって発生した瓦礫を砕き、土に混ぜ込むことで水捌けを良くし、根が深く伸びるよう空気を含ませながら柔らかい土に仕上げ、津波で流された鳥居の一部は盛り土した部分の土留めに再利用された。植樹祭ではドングリから発芽したポット苗が1平方メートル辺り3本、違う樹種が隣り合うように密集して大勢のボランティアの手により植えられた。植えられた苗の上には乾燥と雑草抑制のため藁が敷かれた。

その後、水道が通っていなかった神社では水撒きをすることもなく、海風で土を飛ばされることもなく、自然に任せながら、最初の3年は草取りだけを行った。冬季の低温でほとんどの苗が茶色くなってしまった時は不安になったが、春まで待つように指示され、春を迎えると新しい芽が出てきて、枯れたと思われた葉が生き生きとしてきた。真夏には森の中と外で5度℃も温度差があるほど木々は繁り、今では冬の西風を避けられる程成長している。植樹祭に来てくださった方からもよく育っているねと喜ばれている。社殿も再建され、宮脇氏が亡くなられた後も森の成長は見守られながら、笑顔で集まれる場所、魂の集う場所として14年目の春を迎える。

(文責 渡邊 節子)

第77回理事会を開催

第77回理事会を下記の通りリモート開催した。

開催日時：2025年3月25日（火）15時～6時30分

出席者：全理事22名のうち19名（委任状提出9名）

審議事項

第1号議案：令和7年度総会の開催について

第2号議案：本部・支部の呼称について

第3号議案：事務の運営について

第4号議案：社叢インストラクター養成並びに資格更新について

報告事項 会誌『社叢学研究』第23号並びに会報『鎮守の森だより』第133号の発行について

資料にもとづいて審議を重ね、すべての議案が了承され、6月21日に開催の通常総会に向け、準備を進めることになった。また、関東支部、中部支部、関西支部、九州支部で名称を統一する。今後、関西を中心に広く理事の参加を募り、時代にあった効率のよい、また、会員にとってメリットの多い組織運営を検討する。社叢インストラクター資格更新対象者の手続きを進める。 以上を決定した。

事務局から

年次総会の季節が参りました。皆さまの参加をお待ちします。本紙に参加申込書がありますので見学会、懇親会など人数を含めてお忘れなくご記入の上、ご連絡ください。参加費の事前振り込みはお忘れなく。本年度の学会費納入用の振込用紙を同封しておりますので、年会費のお振込みをお願いします。年

次総会の参加費についても年会費と合算の上お振込みいただいても結構です。学会の活動を充実し、円滑に進めるためにも会員の拡充や事務局業務にご協力いただけると幸いです。

編集後記

皆さまのご協力により、第133号をお届けできたこと感謝申し上げます。6月に開催される通常総会の内容とともに、各地定例研究会の報告と予告などをお知らせします。

令和7年度は、内閣府が定める「みどりの学術賞」受賞者に本学会の森本幸裕副理事長が選ばれ、内閣総理大臣から授与されることになりました。「景観生態学的研究を基盤とした都市における自然再生」の功績が認められたもので、第19回みどりの式典にて授賞式が行われます。

また、生物多様性の保全に取り組む民間活動の地域を認定する環境省の「自然共生サイト」に、三か所の神社が選ばれ、京都市の城南宮、松尾大社とともに、学会正会員の萩原豊和氏が宮司を務める松坂市飯高町鎮座の八柱神社が認定されました。地域の氏神社が認定されるのは全国で初めてのことで、杉の巨木群など鎮守の森を守る氏子の皆さんの活動が評価されたものです。

今年の年次総会は、太宰府天満宮での通常総会・特別講演・研究発表・シンポジウムや境内拝観とともに、翌日は見学会として山岳信仰の歴史を有する竈門神社、英彦山神宮などを参拝します。筑紫の地で是非お会いしましょう。（編集担当 賀来宏和）

次回予告 【第95回関西定例研究会】

- ◆日時：5月4日（日・みどりの日）13:00～16:00
- ◆場所：京都市梅小路公園（緑の館（グリーンホール）、朱雀の庭、いのちの森） *嵯峨野線「梅小路京都市」駅下車すぐ、又はJR京都駅より西へ徒歩15分
- ◆テーマ：鳥から見た社寺林と自然共生サイト *（公財）京都市都市緑化協会及び日本鳥学会員近畿地区懇談会との共同企画
- ①話題提供1：福井亘氏（京都府立大学）「都市の緑と鳥」
- ②巡検：朱雀の庭といのちの森（いのちの森モニタリング・グループ）
- ③話題提供2：須川恒氏（日本鳥学会・龍谷大学里山学術センター）「鳥の京都府レッドデータブックを読み解く」
- ④討論：（司会：森本幸裕） ◆費用：庭園入場料200円（個人）

次回予告 【第95回関東定例研究会】

- ◆日時：5月10日（土）13:00～16:30
- ◆場所：①小石川植物園（東京大学大学院理学系研究科附属植物園）正門集合（WEB場所検索：「小石川植物園正門受付発売所」）*都営三田線白山駅A1出口 徒歩約10分
②白山神社
- ◆テーマ：名木の巨木と見慣れない樹木を訪ねて（仮題）
- ◆費用：小石川植物園入園料500円（個人）

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号

TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp